



15  
1246  
1



才子不才と名をとりしむるは下らぬ終ぞ昔のしほ  
うせえやくとこころ入くりそしつるをうり糸のかき  
志すふあしつるはつたは貝のいめいはいは情士と  
をいふは集りてをいふは志すおのぬれむかり又集の  
類いふはつた其説の中よりとすつたはよくむ人とか  
志す

天照丁未り年秋七月難波津に蘆邊に久後すむ  
阿文人志す

玉藻吉撰破中歌りひ志すつる詠事すふ  
希勢其國かゝれ浦わよ住つともいふ  
中思ひふく。年あしむか終ふ。廻り浦  
もむあしつる。やまうらむ破つふをかあうり  
あも。されどあしつる。うらむか終ふ。生ま  
つる。比國あし久ふりあしつる。く  
筆乃海を硯にきく。記しつる。久  
ぬる。み月のとらむ。あしつる。海に  
かをくりぬる。あしつる。あしつる。

かくとさかー加が何れ。教をけんが  
あまのいづべー。比松がうら  
貝を。日すれ貝とあふれふく  
こよめるあまのいづべーおも  
かー忘具とふづあ。公をふく  
讃岐國多度郡塩江

森助左衛門長見

天明之と世秋のふらだ

月乃夜すうう草をそむ

國學忘具引用書

宋史

本朝文粹

孟子

俗説贅辨續編

弘仁格序

桃花葉葉

舊事本紀

日本書紀

令義解

和漢問答

大明一統志

法曹至要抄

貞觀格序

國學指要

古事記

續日本紀

日本後紀

續日本後紀

文德實錄

三代實錄

律

讚岐大日記

國書目錄

信濃地名考

俗說贅辨

和事始

神道野中清水

廣益俗說辨

懷風藻

釋日本紀

新撰姓氏錄

古語拾遺

古語拾遺句解

朝野群載

神代口訣

神皇正統紀

日本紀問答

日本紀纂疏

神代和訓集成鈔

神代卷鹽土傳

本朝通紀

和學辨

結駝錄

神道玉銚之道草

神道排佛之說

本朝學原浪華鈔

和漢三才圖會

和字正濫鈔

和字正濫要畧

同文通考

古史通

和讀要領

觀鷺百譚

俗說辨

神名書

中臣菑清淨草

本朝字府秘傳

中臣菑要信解

中臣菑白雲鈔

中臣菑大全

牛馬問

殘編俗說辨

神代卷跋

和字通例書

本朝俚諺

神代卷藻鹽草

中臣菑舊證

遊和草

鹿島所藏書

山海經

魏志

裝束要領鈔

史記評林

萬葉集

唐詩選

古今和歌集

南嶺遺稿

祖來文集

南郭文集

禮記

康熙字典

字彙

故實秘要抄

職原鈔

孔子家語

撈海一得

語意

古言撈

奧儀抄

和訓栞

扶桑拾葉集

太平記

建武年中行事

唐書

六典

行餘隨筆

太平記理盡鈔

温故要畧

延喜式

本草綱目

內經靈樞

江家次第

養生訓

徒然草

南留別志

續太平記

太閤記

春秋左氏傳

文選

文選六臣註

百人一首古說

大和物語

日本紀通證

神學類聚鈔

拾芥抄

懲惡錄

八雲御抄

古今榮雅抄

五雜俎

神代卷講述鈔

水鏡

公卿補任

大鏡

禁秘抄

宇治拾遺物語 源氏橋姬卷

源氏湖月抄 年中故事要言

日本歲時記 雛遊記

貝合記 十訓抄

紫式部日記 井蛙抄

拾遺和歌集 扶桑故事要畧

聖學自在 明月記

百人一首拾穗抄 百人一首基箭抄

同增補繪抄 百人一首改觀抄

耳底記 官職知要

集義和書 都鄙問答

論語 兩朝平壤錄

秋齋間語 神明憑談

貞永御成敗式目 續遊和草

詩經 婦人壽草

漢書 日本釋名

璫囊鈔 辨道書

辨辨道書 辨太宰氏辨道書



親族正名

釋親考

為學初問

和漢明辨

內經素問

職原鈔參考

庭訓往來

元亨釋書

撰集抄

釋氏廿四考

三教指歸

救荒本草

救荒野譜

國語

弘法行狀記

大東世語

鶴林玉露

閑際筆記

運氣論

神應經

類聚和名抄

賴政家集

鎌倉實記

東鑑

秉燭或問珍

列仙傳

廣益俗說辨後編

養久記

駿臺雜話

平家物語

平家物語評判

源平盛衰記

新勅撰和歌集

名將傳

楠氏兵庫卷

市井雜談集

今昔物語

萬國掌葉圖

采覽異言

古文孝經序跋序

義經蝦夷軍談

蝦夷志

南島志

中山傳信錄

土佐日記

經濟錄

續草廬雜談

貞觀政要

北條家系圖

鈐錄

數度霄談

草廬雜錄

勸農固本錄

沙石集

無名抄

太平記大全

儀禮

隨意集

清正記

武將感狀記

四海太平記

江源武鑑

豐臣秀吉家譜

淺井三代記

重編應仁記

和論語

善隣國寶記

明史

楠石論

姓氏解

大系圖

讚留靈記

玉藻集

朝鮮征伐記

總計二百三十四部

書中他見引用書凡六十餘部省其書名且稱或曰或書者不記有其秘

四武大	五時	六時	七時	八時	九時	十時	十一時	十二時	十三時	十四時	十五時	十六時	十七時	十八時	十九時	二十時	二十一時	二十二時	二十三時	二十四時	二十五時	二十六時	二十七時	二十八時	二十九時	三十時	三十一時	三十二時	三十三時	三十四時				
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...

執齋曰伊勢國  
元居宜長氣質  
風俗長見近世  
可謂文中龍具  
志入聖域且心同  
神憲此書元居  
宜長著對人見  
者可察也

福原ノ遷都  
神皇正統紀  
平城天皇御  
紀三是言遷  
都キニソシテ  
御在所ヲシテ  
ハカラス事  
タニリ

國學忘貝卷之上

國學忘貝卷之上

讚岐 森長見 編輯

謹テ國史拜讀スルニ此國ノ如キ尊キハアル

マシ開闢ヨリ 皇統連綿 君君タリ臣臣タリ

他ノ年號ヲ不用

桓武天皇平安城ニ遷都マシテヨリ千年ニ

及ビ不易ナル事海外何レノ國力比スベカラン

此方ノ正キヲ外國モ感スルヤ宋史ニ雍熙元年

日本國僧齋然至獻銅器十餘事并本國職員令王

年代紀各一卷太宗召覽奮然存撫之甚厚賜紫衣  
上聞其國王一姓傳繼臣下皆世官太宗歎息謂宰  
相曰世祚遐久其臣繼襲不絕此蓋古之道也トテ  
君臣無窮ノ業ヲ建ント願レシト見エタリ職員  
令ハ奉勅ニテ不比等公其後夏野公等ノ述作  
シタマフ令義解ニアリ官位全備ナル外國ニ渡  
ストモ耻カシカラス奮然入宋時ノ文章等ハ本  
朝文粹ニ見エタリ

②西土世變リ國號改ルト開闢ヨリ幾度ツヤ堯

舜ニ讓リ舜ハ禹ニ讓カ如キ上代有德ナレハ讓  
ト云フモ宐ナラン世澆季ニ至テハ間ニ己カ不  
徳ハ顧ミズ聖人禪讓ノ例トテ押テ位ヲ棄ノ類  
少カラズ聖人位ヲ讓ラレシモ時ニ臨テハ末世  
亂ノ一端トモ云ベシ近頃ニテ農業シ或ハ履ヲ  
賣シ輦天子ト成ゴトキ國ガラ聖人君君タリ臣  
臣タリトノタマヘドモ君臣ノ道立ザルユヘニ亂  
ニ入テハ帝號ヲ僭スル者所々ニ發テ天下擾亂  
シ後ニハ夷狄ニ國ヲ棄ハレ社ヲ左ニスルニ至

ル此方 君臣ノ道正キユヘ 勅ヲ以テ不道ヲ征  
ス是治モ速カナルナリ伴部安崇ノ和漢問答ニ  
書レシゴトク恐多ケレドモ若シ日本ニ桀紂ホ  
ドノ悪アリ其下ニ湯武ノゴトキ聖人アリトモ  
決シテ君トハ仰クマシ  
武烈天皇ノ御跡ニテ

繼體天皇ヲ奉迎シヲ思フベシ西土ノ人サヘ堯  
舜ハ父子ノ衰ナリ湯武ハ君臣ノ缺ナリト云ハ  
ズヤ武王ノ紂ヲ弑テ後微子ノ賢ヲ立ベシト門

人ノ問ケレバ先生眉ヲヒフムト朱子語類ニモ  
見エタリ誠ニ國カラノ悪ハ聖人モヤムトヲ得  
タマハヌナルベシト書リ愚思フニ孟子曰聞誅  
一夫紂矣未聞弑君也トアレド是等ハ此方ノ法  
トハ不當主父ヲ弑スガゴトキ竹鋸ニテ頸ヲ挽  
磔刑ニ行ノ重キヲ俗ニモ云スヤ

㊦此方是ニテ咫尺ノ地モ外國ヘ取レシトナク  
本朝文粹ニ三善朝臣ノ書タマフ如ク東平肅慎  
北降高麗西虜新羅南臣吳會三韓入朝百濟内屬

④ 往古ヨリ深秘アリテ外國へ書籍ヲ渡サレヌ  
 志ノ如キ書ヲ他へ出スハ遠キ慮リナキヤ亂入  
 ノ能郷導タルベシ俗説贅辨續編ニ國々ノ風土  
 記ノ今全ク傳ラザルハ恐クハ神秘ノ訣アラシ  
 卜ハ宜ナルベシ  
 ⑤ 日本法令題目ノ書ハ法曹指要抄ニ

令	十卷	贈太政大臣藤原不比等	奉	勅撰
律	十卷	右同	奉	勅撰
弘仁格	十卷	大納言藤原冬嗣等	奉	勅撰
貞觀格	十二卷	大納言藤原氏宗等	奉	勅撰
延喜格	十一卷	左大臣藤原時平等	奉	勅撰
弘仁式	三十卷	大納言藤原冬嗣等	奉	勅撰
貞觀式	二十卷	左大臣藤原氏宗等	奉	勅撰
延喜式	五十卷	左大臣藤原時平等	奉	勅撰
右等ノ律令格式ノ書ヲ見テ國法ヲ知ベシ是政道				

ノ書ナリ法曹指要抄ハ明法博士坂上兼明撰ナ  
 リ弘仁格ノ序ニ律以懲肅為宗令以勸誠為本格  
 則量時立制式則補闕拾遺四者相須足以垂範ト  
 アリ亦貞觀格ノ序ニモ律云斷罪須引律令格式  
 正文令云犯罪未斷決逢格改者見エタリ桃花葉  
 葉ニモ令ハ吾朝法度也律吾國刑書也格臨時處分  
 ナリト書タマヘリ

⑥田所貞吉先生國學指要ヲ撰前ニ印刻セリ國  
 學ノ次第アリ舊事紀古事紀日本書紀續日本紀

史記蘭相如  
 傳若膠柱而  
 鼓瑟  
 紫式部日記  
 いまのむかし  
 しあひのこと  
 ちうと

日本後紀續日本後紀文德實錄三代實錄等律令  
 格式國法ノ書等能師ニ從テ習ベシ國學ノ事ハ  
 深秘アレハ師傳ヲ請ベシ印刻ノ書ハ閒ニ脱漏  
 傳寫誤字アリ甚齟齬スル事多シ猶國書ノ多キ  
 一ハ國書目錄ヲ見テ知ベシ俗儒國ノ故實ヲ知ラ  
 ス日本ニハ書ナシト論ジ經濟ノ書ナリトテ異  
 國ノ一ノミヲ舉用セルノ述作アリ聖人ノ道ハ  
 萬國一同ナレド其國ニハ亦自然ノ風土アリ其  
 本ニヨラザレハ柱ニ膠スルノ如キモアラシ己

カ浅見ヲモ思量スベシ本國ニ古ヨリ法令アル  
ノ書ヲモ知ラス一向ニ他ヲ慕ハゞ燈臺下暗シ  
トヤラ其費モアラシ

⑦此讚岐ニ生レテ國名郡村等何ニヨリテ其稱  
スルヲモ知ラス我是ヲ耻ツ此頃モ友何某來テ  
南京北京ノ路程三千里餘凡三十日路ト論シ周  
ニハ何ノ地名コソ漢ニハ何ト改リ大明一統志  
ニハ斯ナド、此方ノ一ハ捨置テ博識沙汰ニ論  
セシモ心アル方ハ如何思タゞハシ井澤長秀博

洽ナル哉俗說辨讚岐國ノ一ヲ書レシ中ニ讚岐  
大日記讚州地志ナドヲ舉タリ此書國ニ生レナ  
カラ漸近年見當リハベリシ國々ノ風土記ハ今  
全カラス適風土記ト稱スルモ後人附會ノ偽作  
多シト猶師傳アリ迄頃印刻アル信濃地名考ナ  
ド可感書ナリ其國ニ生レテハ如斯コクアリタ  
シ

⑧稱呼辨ニ世俗京ヲ洛陽ト云京へ上ルヲ上洛  
ト云亦長安ト云山城國ヲ雍州ト云甚非ナリ平



安城皇都京師ナド申ベク他号ヲ稱スベカラス  
莫大ノ曲事ナリ凡都ト云字夷ノ都ナト夷ノ字  
ヲ冠ラシテ云ベキハシラス其外他所ニ稱スル  
ハ僭上無禮ノ至恐ベシト諸國ニ州ノ字ヲ付ケ  
陽ノ字ヲ付江戸ヲ武陵ト書ナト皆非ナリ作詞  
章裁簡牘者私ニ西土ニ擬スルヲ好メリト其  
出所悉ク舉引テ俗説贅辨亦和事始ナドニモ出  
セリ此程モ或詩文ヲ好ム方ト會セシニ京都ノ  
地名コフ雅ナリ何國ノ地名コフ不雅ニテ連綿

熟字ニ用カタキナト浮薄ノ言ヲ吐テ己ガ淺見  
ヲ知ラズ國名鄉村ノコトハ上古ヨリ掟アリ私ニ  
論スルハ實ニ恐ルベシ

⑨唐土ヲ中華ト云ハバ此方豊葦原中國ト稱ス  
ト神道野中清水ニ天文輿地ノ考ヲ以テ日本ハ  
帝座紫微宮ノ下ニ當レルコトヲ舉亦廣益俗説辨  
ニモ垂加翁ノ説等ヲ委ク引リ此程モ或方ト談  
話セシニ本朝ト云フヲ先ニハ西土トノミ心得  
後ニハ物語モ大ニ齟齬シテ一笑セリ詩文章ヲ

專ラトスル方異國ニ擬セントテ姓氏實名等ヲ  
 畧シ源姓ヲ原トノ三書シ藤原姓ヲ藤トバカリ  
 書ナド如何ゾヤ如斯云バ古ヨリ此方モ異國ヲ  
 摸スルノ名アリ何レノ書或ハ本朝文粹ニコソ  
 如斯ナド、申サレンガ古風ノ書ヤウハ懷風藻  
 ナド見ルベシ少シモ西土ニヨリタマハズ此書  
 ハ天平勝寶三年ノ序アリ古ハ名ヲ稱スルニモ  
 源平藤橘諸姓氏大方其姓氏ヲ冠ラシメタリ梶  
 原ハ平姓ナルニ源太トハ故アリ平次平三等ノ

類ナリ官名ニモ多ク姓氏ヲ冠ラシテ稱セリ

⊕盡信書不如無書ト神代ニ文字有無ノ說諸書

ニ論スル丁紛紜タリ一々諸書ノ說ヲ爰ニ記ヤシ

ナレト甚タ繁多ナレハ漏シツ先ツ予ガ淺見ナ

ルサヘ見當リヌル書名バカリヲ參考ノタメニ

記ス

釋日本紀

新撰姓氏錄序

古語拾遺序

古語拾遺句解

朝野群載箱崎紀

神代口訣

神皇正統紀

本朝文粹

日本紀問答

日本紀纂疏

神代和訓集成鈔

神代卷鹽土傳

本朝通紀

和學辨

結駝錄

神道玉鉞之道草

和漢問答

神道排佛之說

本朝學原浪華鈔

和漢三才圖會

和字正濫鈔

和字正濫要畧

同文通考

古史通

和讀要領

俗說辨

觀鷺百譚

神名書

中臣菰清淨草

神道野中清水

和字傳來考

本朝字府秘傳

國學指要

中臣菰要信解

中臣菰白雲鈔

中臣菰大全

牛馬問

和車始

殘編俗說辨

神代卷跋

和字通例書

本朝俚諺

神代卷藻鹽草

中臣祓舊證

遊和草

鹿島所藏書

凡右等ノ書其說混雜セリ右書ノ中神代ノ文字  
 トテ出セルアリ神代文字ナシトモ論ス委クハ右ノ  
 諸書ヲ參考アルベシ常陸鹿島ノ所藏ナリトテ  
 或方ニ秘セシヲ近頃見シニ珍書ナリ神名書且  
 中臣祓舊證ナドニ出セル文字ト合セリ松下見  
 林曰見我國史

神武天皇以後記年月日時分明由是觀之蓋我通

中國在神代之末至

神武天皇通曉文字及

應神天皇王仁來經學盛行乎亦山海經南倭北倭

山海經堯時之書也漢王充論衡曰周時天下太平

越裳獻白雉倭人貢鬯亦成王之時倭人貢暢

云日本之學始於徐福說我則不信トアリ予謹テ

日本書紀ヲ考ルニ王仁來時トテ書ノアリ

神功皇后新羅ニテ收圖書文書タマフノアリ

亦國史ニ載セズ分明ナラストイヘドモ魏志ヲ

見レバ倭女王上表スナド記セリ其文法如何ナ  
 ランカシ所見ナシ亦寺島良安説ニ  
 應神御宇百濟ヨリ王仁來朝シテ儒風真ト傳フ  
 東國通鑑ニ百濟迄肖王二十九年始有文字ト返  
 而日本ヨリ遲キヲ如何迄肖王二十九年ハ  
 仁徳天皇六十二年ニ當ルト能考ヘラレシ亦聞  
 書呂宋ノ條ニ南倭北虜皆有文字類鳥跡古篆意  
 其初有達人制之耶ト見エタリ是何レノ文字南  
 倭ハ此方ヲ云ルヤ神代ヨリノ文字此方ニテサ

ヘ右ニ引ル書目ノ中説々定ラス異國ノ書不為  
 証右ノ書ハ予ガ淺見ノミナリ説々多キヲ參考  
 ノタメニ舉ルノミ猶師傳アリ  
 ⑤ 裝束要領鈔ニ日本ノ車ハ車々ニトナヘ讀ク  
 世有之傳授ナクテハ叶ガタク文武ト申セハフ  
 ン官ト申ベキヲモニクハント讀冬ハ檜扇夏ハ  
 蝙蝠ヲ持タマフカハホリト讀直衣カナツカヒ  
 ニハナヲシナレトモナフシト讀衛府ノ劔ト申  
 ヲエトフト二字ニカギラスシテエフト言葉ヲ

引ツバケテ讀然レトモ近衛府ト申時ハ切テ讀  
ナド、ノ事多シ是等ハ只一端ナリ如斯ノ「數  
ヘカタシ

⑤古實ノ實ノ字ハ清テ讀モノナリト藤原韶光  
卿ノノタマヘリト和學辨ニアリ故實ノ字ノ事  
史記評林魯世家註ニ周一作故故事之是者ト有  
日本書紀神代卷ニ故實ヲカレマコト、アリ其  
餘國史ニ出タリ

⑥歌ヲ詠ント學フ方ノ故實ヲタツ子ズ國史萬  
葉集ナド上古ノ様ハ見タ「モナク詩作ニ耽ル  
方ノ詩經文選漢魏以上ノ古風ニハ目モヤラス  
唐詩選一部ヲ萬物ニ及サントスルカ如ナラン  
ヤ此程モ或宗匠顔スル俳諧者ノ古今和歌集ニ  
此躰アル「モ知ラス史記ノ滑稽傳ノ條ノ讀ガ  
ルモアリ君子勢本立而道成トアレハ温故テ  
新ヲ知タキモノナラン勿論予歌學ノ道ハシラ  
子トモ日本書紀其餘國史等ニ出ル處ノ躰且萬  
葉集ナドモ諸抄多ケレハ參考ニ深意ハ師傳ア

ルベシ古風ニモ入ヤスカラン歌道ハ深秘多ケ  
レハ能師ニ從ベシ南嶺遺稿ニ歌ヲ詠セハ故實  
官職等ノフヲタヅヌベシ古歌ニ解シガタキフ  
アリトハ宜ナラン

④國學ノ事ハ秘事口授多ケレハ能師ヲ求メテ  
習タキモノナリ印刻ナキ書ナドハ師傳ナクテ  
ハ見ガタキフ多シ外國ノ書ヲ見タレバ其力ニ  
テ國書モ事スムト心得猥リニ言ヲ吐キ己カ淺  
見ヲモ不耻書述ニ及ブナド間アリ心アル方見

聞タマハハ氣ノ毒シタマフラン前ニ聞リ或高  
家ノ詠シタマフトラ

都ニテ月ト花トヲシル人ニ

ミセバヤ富士ノ雪ノサカリヲ

右凡下ノ教トモナリヌ月花ノナカメモ心ナク  
テハ耻ガハシ、亦古歌ニフミアテバメクラモ  
ヘビニヲヅベキガシラ子バヤスキ和歌ノ道カ  
ナトハ將ヨキ教ト感じハベリヌ

⑤喪葬令ニ凡百官身亡者親王及三位以上稱薨

五位以上及皇親稱卒六位以下達於庶人稱死右ノ通り猥リニ稱スルヲナラス然ルニ儒者ト呼ル、方ノ文章ナド見ルニ庶人ニモ卒スナド書日本ノ法令ヲ不知ハ淺見不明ナリ亦僭上非禮之至ナリ徂來南郭ナド其外ニモ文集ヲ見ルニ右等ノ國法ニモ拘ラザルハ如何ソヤ亦西土ノ法ニモ不當トモアリ禮記ニモ天子死曰崩諸侯曰薨太夫曰卒士曰不祿庶人曰死ト出タリ是等ノ字康熙字典字彙等字書ニモ皆禮記ノ文ヲ引

リ只死トハ通稱ナレバ文盲ニ見エント好事ノ返テ齟齬スルト多カラシ故實秘要抄ニ云ク今時歷々ノ人ノ死ヲ他界ト云フトソソラクハ誤ナルベシ下官ノ者モ他界ト云レト其例東鑑ニ出タリトアリ東鑑ヲ見レバ稻毛三郎重成妻於武藏國他界ナド、記サレタリ

⊕西土諸侯ノ子ハ公子ト稱ズレハ此方モ同事ト心得ルモ如何ナラン職原鈔公達ト稱スルノ條ヲモ思量スベシ



⑤ 戶令ニ凡男子十五女子十三以上聽<sub>ス</sub>婚嫁<sub>ト</sub>アリ是國法ナリ間ニ俗儒禮記ニ三十曰<sub>ト</sub>壯有室女子二十嫁<sub>ナド</sub>、此國ノ法令ハ捨置テ異國ノ法ヲ強テ用ルハ如何ゾヤ禮記ノ曲禮ニ七入<sub>テ</sub>竟<sub>ニ</sub>而問禁入國問俗<sub>ト</sub>モ見エタリ孔子家語ニ魯哀公曰男子十六精通女子十四而化是則可以生民矣禮男必三十<sub>ラ</sub>而有室女必二十<sub>ラ</sub>而有夫也豈不晚哉孔子曰夫禮言其極不是過也男子二十而冠有爲人父之端女子十五許嫁有適人之道於此而往則自昏

矣ト見エタリ亦同書本姓解ニ孔子十九娶於宋之上官氏生伯魚ト是等モ思量スベシ

⑥ 秀吉公へ明朝ヨリ王號ヲ贈レルヲ大ニ怒リ玉ヒテ和睦破レ再ビ軍ヲ發セラレシハ彼足利氏ノ拜受セシトハ同日ノ論ニアラス予敢テ其是非ヲ言フニアラサレ氏足利ノ臣伏アリシニハ恨氣ヲ發シ豊臣公ノ大略ニハ銳氣ヲ生ス

⑦ 秀吉公ノ朝鮮へ渡シ玉フ書ニ予當于托胎之時慈母夢日輪入懷中相士曰日光所及無不照監

中朝鮮へ渡入大明易吾朝風俗於四百餘州政化  
ヲ施サントハ實ニ快然タル哉

⑤秀吉公ノ朝鮮軍事西土ノ書ニテハ兩朝平壤  
録懲忠錄等至テ委ク見ユ秀吉公ハ太閤記豊臣  
家譜其外ノ諸書ニモ猿面猿眼ナド、記レ世ニ  
知ル所ナリ然ルニ懲忠錄ニハ秀吉容貌矮陋面  
色黧黑無異表但微覺目光閃々射人ト平壤録ニ  
ハ見闕白左頬上有黑痣數點面似犬形トアリ犬  
面トハ一笑ナリ亦太閤記朝鮮征伐記清正記ナ

ド其餘ノ朝鮮軍記ヲ見ルニアノ方大軍ト記シ  
秀吉公諸將へ賜リシ感狀ニモ百萬ノ軍勢ナド  
トアリ右ノ平壤録懲忠錄ナド別レテ大軍トモ  
不見ナリ西土ハ廣大ナラントテ小勢ヲ百萬ナ  
ド、傳へバ此方ノ兵威ヲ下スナランアノ方ニ  
モ此方ヲ大軍ト怖レシニヤ平壤録ニモ朝鮮告  
急之文無日不至聲言倭兵百萬分作二三運將向  
天朝ナドノ文アリ

國學忘貝卷上 本終

